

令和7年度  
「ちばっ子の学び変革」  
推進事業研究状況報告

成田市立遠山中学校

## 研究主題

個別最適な学びと協働的な  
学びを取り入れた授業展開  
による主体的・対話的に学  
習に取り組む生徒の育成

# 目次

- 1 学校の概要
- 2 本校の生徒の実態と課題
- 3 研究主題と仮説
- 4 研究の方法
- 5 研究の実際
- 6 研究の成果と課題

# 1 学校の概要

- ▶ 開校 昭和22年（1947年）
- ▶ 生徒数 414人
- ▶ クラス数 1学年4クラス 2学年3クラス  
3学年4クラス 特別支援学級5クラス
- ▶ その他 遠山小、本城小、三里塚小学区からなる  
8割超が自転車通学  
学区に成田国際空港

## 2 本校の生徒の実態と課題

### ○生徒の実態

- ・ 生徒は全体的に明るく素直である。
- ・ 元々は純農村地帯であったが、成田空港の開発とともに、開発が進んだ地域であり、外国籍の生徒の転入も多い。
- ・ 言葉の壁によって授業理解が進まず、学習を苦手とする生徒も少なくない。
- ・ 数学への苦手意識を持っている生徒も多い



数学への興味関心の向上が課題である

## 2 本校の生徒の実態と課題

### ○全国学力・学習状況調査の結果から

- ・ R7全国学力・学習状況調査によると、平均正答率が県平均より下回る。
- ・ 知識・技能よりも思考力・判断力・表現力について平均正答率が下回っている傾向があり、知識・技能に比べ、思考力により課題がある。



学習を苦手とする生徒に対する効果的な指導と、思考力を伸ばすような指導の工夫が必要である

# 3 研究主題と仮説

## 研究主題

個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業展開による主体的・対話的に学習に取り組む生徒の育成

# 3 研究主題と仮説

## 研究仮説

- ▶ 協働的な学びを推進するグループ活動を授業内に設定することで、生徒は協働性をもち、主体的・対話的に学習に取り組むことができるであろう。
- ▶ 授業内で少人数指導を取り入れ、自ら設定した課題に取り組むことによって、生徒は基礎的な知識・技能および、思考力・判断力・表現力を身につけることができるであろう。

## 4 研究の方法

### 仮説を検証するための方法①

- ▶ 協働的な学びを推進するグループ活動を授業内に設定することで、生徒は協働性をもち、主体的・対話的に学習に取り組むことができるであろう。



**場面に応じて次の3つのグループを使い分ける**

- ①座席配置を基にした2人組（ペア）
- ②座席配置を基にした4人組（学びのグループ）
- ③席や相手を自由に選ぶ自由グループ（自由な学びグループ）

## 4 研究の方法

### 仮説を検証するための方法① 各グループの使い分けについて

#### ①座席配置を基にした**2人組（ペア）**

知識・技能の確認と共有      意見交換やアイデア出し  
資料分析と解釈                  振り返りとまとめ

#### ②座席配置を基にした**4人組（学びのグループ）** ※逆T字型

調査・発表      問題解決      討論・ディベート      作品制作

#### ③席や相手を自由に選ぶ**自由グループ（自由な学びグループ）**

探求課題      能力別課題

# 4 研究の方法

## 仮説を検証するための方法①

### 生徒の活動の様子

教員は生徒の様子を見て、ファシリテーターとして動く

- ・背面スペースも学ぶ場として活用
- ・前面黒板は、生徒が考えるために使ってよい

一人でやってもよい

仲間と協力してやってもよい



## 4 研究の方法

### 仮説を検証するための方法②

- ▶ 授業内で少人数指導を取り入れ、自ら設定した課題に取り組むことによって、生徒は基礎的な知識・技能および、思考力・判断力・表現力を身につけることができるであろう。

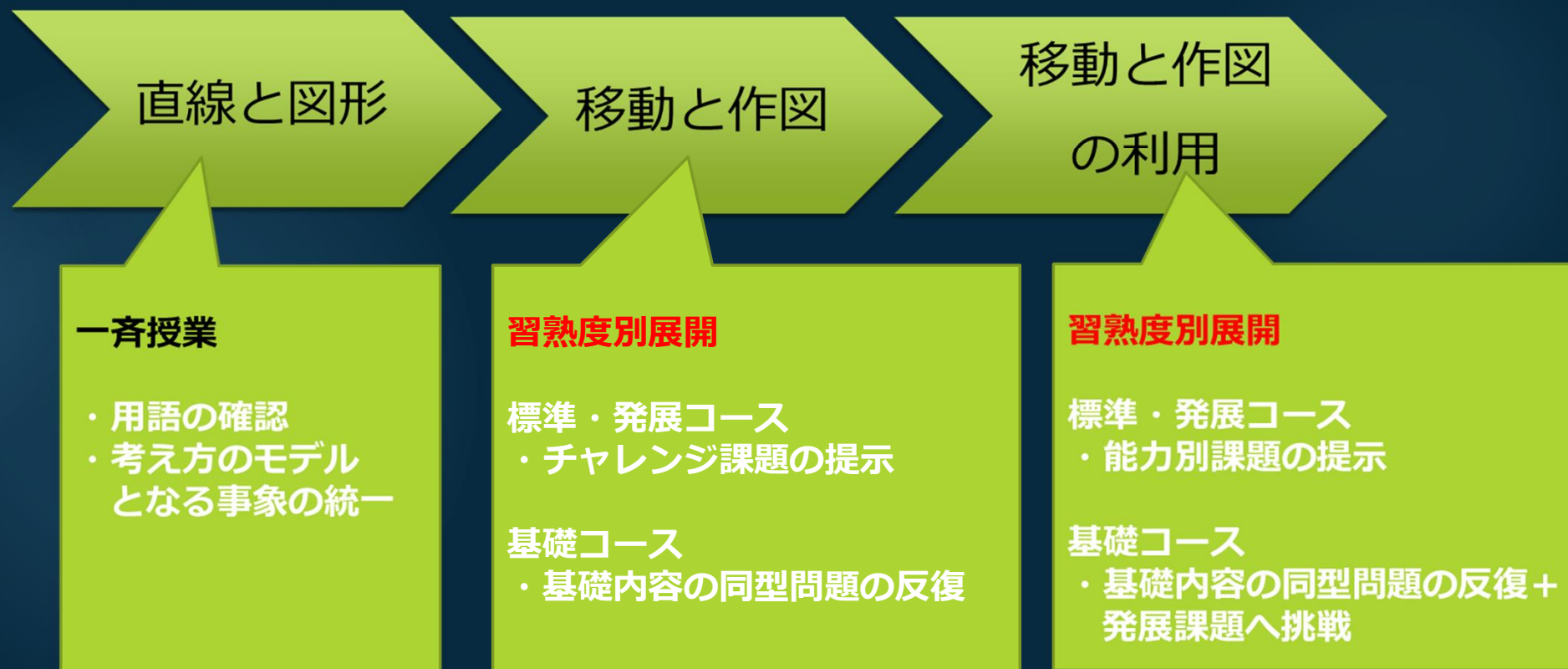


- ▶ 1学年で少人数指導を行う。最初は、生徒・保護者の希望によって振り分けを行う。
- ▶ コースは習熟度別で「標準・発展コース」（8割）「基礎コース」（2割）に分けた。
- ▶ 単元の中で共通事項確認の際は一斉授業、技能面で差がつきそうな場面や、単元の利用ではコース分けで実施した。
- ▶ 進度を統一せず、各クラス担当者が必要に応じて時間配分を柔軟に変えながら学習を進める。
- ▶ 標準・発展コースは、共通の課題が終わった人に複数のチャレンジ課題を示すようにした。基礎コースは技能の定着を図るプリント学習を主に行った。（おかわりドリル）

# 4 研究の方法

## 習熟度別クラス展開の例

### 中学1年 5章 平面図形



## 4 研究の方法

# 習熟度別コース基礎コースの様子

集中できる環境作り

終わったら、次のプリントを選び持って行く



教員が個別にサポート

# 4 研究の方法 その他の取組

## 推進体制の構築

- ・ 2週に1回の学習指導部の実施し、研究の進め方等について確認

## 教育課程の編成

- ・ 絆塾の実施（生徒会本部主催、テスト前に行う教えあい学習会）
- ・ 家庭学習交流会（異学年での学習の進め方の意見交換会）

## 家庭との連携

- ・ 家庭学習コンクール（生徒の家庭学習を保護者がチェック）

## 授業改善

- ・ 校内研修の実施（相互授業参観、研究内容伝達研修など）

# 5 研究の実際

## ① グループの活用について

### 実践例① 図形の移動（回転移動）

- ・ 2人組で移動の種類の確認と、平行移動の特徴の復習する。
- ・ 回転移動の特徴を全員で確認する。
- ・ 4人組で回転移動した図を作図することに取り組む。

### 実践例② 方程式（いろいろな方程式）

- ・ これまでに学習した方程式を20個ほど示し、自由グループで、自身が取り組みたいものを決めて実施する。

# 5 研究の実際

## ①グループの活用について

### 実践例③ いろいろな作図（作図の利用）

- ・ 作図可能な角度をいくつか示し、自由グループで自分を取り組みたいものを決めて実施する。

### 実践例④ いろいろな立体（導入）

- ・ 4人組で、立体の見取り図から連想される身近な物体を挙げ、その特徴から分類する。

# 5 研究の実際

## ②少人数指導について

### 実践例① いろいろな方程式

標準・発展コース・・・自身で方程式を作り、お互いに解き合う。

基礎コース・・・基本の方程式に絞り、プリント学習を行う。

### 実践例② 比例・反比例の利用

標準・発展コース・・・身近な題材から比例や反比例関係を見つけ、  
問題解決する。（2時間）

基礎コース・・・比例・反比例のグラフの復習＋身近な題材に取り組む。

# 5 研究の実際

## ③ アンケート調査 (調査項目)

- ① 数学の勉強は好きですか。
- ② 数学の勉強は大切だと思いますか。
- ③ 数学の授業の内容はよく分かりますか。
- ④ 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。
- ⑤ 数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。
- ⑥ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
- ⑦ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。
- ⑧ 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。
- ⑨ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

# 5 研究の実際

## ③ アンケート調査

(事前調査 R7 4月)

R7 4月 実施	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9
当てはまる	23%	67%	40%	31%	16%	38%	30%	30%	32%
どちらかと言え ば当てはまる	44%	26%	43%	49%	37%	52%	51%	45%	41%
どちらかと言え ば当てはまらない	13%	2%	11%	15%	29%	7%	15%	22%	20%
当てはまらない	20%	4%	6%	5%	18%	2%	5%	3%	7%

# 5 研究の実際

## ③ アンケート調査

(事後調査 R8 1月)

R8 1月 実施	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9
当てはまる	39%	64%	32%	29%	18%	42%	28%	34%	32%
どちらかと言え ば当てはまる	49%	29%	56%	49%	35%	49%	56%	53%	48%
どちらかと言え ば当てはまらない	8%	5%	11%	20%	39%	6%	15%	11%	18%
当てはまらない	4%	2%	2%	2%	9%	3%	1%	3%	3%
肯定的評価 の変動	<b>21%</b>	0%	5%	-2%	-1%	1%	4%	<b>12%</b>	7%

## 5 研究の実際

### ③ アンケート調査（分析）

① 数学の勉強は好きですか。

	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9
肯定的評価 の変動	21%	0%	5%	-2%	-1%	1%	4%	12%	7%

有意に上昇している。自らの学習を調整できる機会があることで、主体的に学習に取り組むことにつながったと考えられる。

## 5 研究の実際

### ③ アンケート調査（分析）

⑧自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9
肯定的評価の変動	21%	0%	5%	-2%	-1%	1%	4%	12%	7%

有意に上昇が認められる。少人数指導や課題提示の工夫により指導の個別化が達成できた。また、課題提示の工夫や自由グループの活用によって学習の個性化が達成できた。

## 5 研究の実際

### ③ アンケート調査（分析）

④ 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

⑤ 数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9
肯定的評価 の変動	21%	0%	5%	-2%	-1%	1%	4%	12%	7%

自由グループの活用のよさは、気軽に周囲と協働できたり、教えあいができたりすることであるが、その気軽さ故に、一部の場面では粘り強さを欠く側面があるのかもしれない。また、学習者が個で考える時間が相対的に減るので、多様な考えを見いだそうとする動きが弱くなることも考えられる。

# 5 研究の実際

## ④生徒のアンケートから

### 基礎コース

- ▶ 丁寧に教えてくれてテストの点数が上がる。
- ▶ 他の先生とは違って、先生は私が理解できるような方法で教えてくれる。
- ▶ 分かりやすく楽しくしっかりと出来る。

### 標準発展コース

- ▶ 基本の問題だけでなく、応用の問題を見つけておしえてくれる。
- ▶ 友達と一緒に解いたり、教え合ったりできる。
- ▶ わかりやすい説明と話し合っ問題をとくのが良い。
- ▶ 友達との学び合いが楽しいしわかりやすい。
- ▶ なんだかんだ1番理解できる。
- ▶ 練習問題をやるときに友達と教え合いをする時間を作ってくれて、周りを見てわからない人がいたら教えてくれる。
- ▶ 机を学びの体形にして勉強ができ、友達と協力できる。
- ▶ 練習問題が沢山だされて達成感を味わえる、また先生がまわってくるから質問できる。
- ▶ 友達と協力して解くことをしたり、問題が終わった時用に発展的な問題があり挑戦できる。

点数が上がった！  
わかりやすい！

応用問題ができる！  
学びあいわかりやすい。  
教員が支援者として動き  
やすい。

## 6 研究の成果と課題 成果

- 協働的な学びを推進するグループ活動を授業内に設定することで、生徒が自主的に学びに向かうようになり、数学の授業が好きになった。
- 授業内で少人数指導を取り入れ、自ら設定した課題に取り組むことによって、基礎コースの生徒は基礎的な知識・技能を、標準・発展コースの生徒は思考力・判断力・表現力を伸ばすことができた。

## 6 研究の成果と課題

### 「○課題」と「★次年度に向けた方向性」

- 他者と関わる時間を優先する余り、個で粘り強く取り組む側面が弱くなってしまった。
- ★課題解決に向けて自力解決の時間も確保する必要がある。
- 少人数展開ができない、学年・教科でも通用する授業デザインが必要である。
- ★選択できる課題や個に応じた指導を実現するための方策を考え職員で共有していく。